

読
音

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響
音

“日本のトップレベルの
オーケストラ”
読響の福岡公演



新鋭にバステイアンが
読響に初登場!

新鋭の 読響

同じリズムと旋律の反復が築く劇的なドラマ。
興奮のクライマックス！



チャイコフスキー国際コンクール優勝を経て、
高い人気を誇るヴァイオリニスト

神尾真由子
(ヴァイオリン)

©Shion Isaka

ベルリオーズ：序曲「ローマの謝肉祭」
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲
ドビュッシー：交響詩「海」
ラヴェル：ボレロ

読売日本交響楽団 名曲シリーズ 福岡公演

2018年9月6日(木) 19:00時開演 (18時30分開場)
福岡シンフォニーホール (福岡市・天神 アクロス福岡1F)
S¥6,100 A¥5,100 B¥4,000 学生券¥2,000
(全席指定・消費税込)

◆学生券の取り扱いはエムアンドエムとアクロス福岡チケットセンターのみとなります。

◆未就学児のご入場は固くお断りいたします。(有料託児サービス有。詳しくは裏面をご覧ください)

◆都合により演奏者及び曲目が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、FBS福岡放送、読売日本交響楽団

共催：(公財)アクロス福岡 後援：福岡市・福岡市教育委員会 マネジメント：エムアンドエム 協力：福岡北東・福岡西南・筑後各読売会



バイエルン放送響でセンセーショナルな成功を収め、
欧州で注目を浴びる新鋭

ジョセフ・バステイアン
(指揮者)

©Astrid Ackermann

お申し込み・お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390
<http://yomikyo.or.jp/>
(10時～18時・年中無休)

エムアンドエム 092-751-8257
(平日10時～18時)

プレイガイド
アクロス福岡チケットセンター(2階) : 092-725-9112
(10時～18時)
チケットぴあ: 0570-02-9999 (Pコード: 106-008)

同じリズムと旋律が増幅する劇的なドラマ

オーケストラの人気曲の一つとして、多くの人々に愛されている「ボレロ」。聴けば必ず楽しい気分になるこの作品は、スペインの民俗舞踊を基にしています。スネアドラム（小太鼓）のソロで始まり、同じリズムを終わりまで169回も繰り返すというユニークな曲。反復の中で異なる楽器がメロディを受け渡し、オーケストラの音色は次々と変化します。次第に音量を増して高揚し、最後はスネアドラムが2台に増強されて大興奮のフィナーレへ！それぞれの楽器の持ち味を活かしたメロディを、輝かしいサウンドでお届けする読響の名手たちにご注目を。

さらに注目されるのは、テレビ「情熱大陸」にも登場して話題になった神尾真由子がソロを務める、チャイコフスキイのヴァイオリン協奏曲。神尾は、これまでに巨匠メータの指揮でミュンヘン・フィルなどと共に演じた実力派。ニューヨーク・タイムズ紙で「輝くばかりの才能」と絶賛され、チャイコフスキイ国際コンクール優勝後も高い人気を誇るヴァイオリニストが、得意の作品で冴えた音楽性を発揮します。

指揮は欧州で話題を集めるフランス出身の新鋭バスティアン。2016年にドイツの名門、バイエルン放送響でセンセーショナルな成功を収めた後、数々のオーケストラを指揮して急速にキャリアを伸ばしている注目株です。

さらに、バスティアンはお国もののフランス音楽から2曲を披露します。一つは牧歌的なメロディと軽快なリズムが特徴的なベルリオーズの序曲「ローマの謝肉祭」。もう一つは刻一刻と表情を変える海の情景を描いた、ドビュッシーの最高傑作として名高い交響詩「海」。色彩豊かに香り立つ名曲の数々をお楽しみください。



指揮

ジョセフ・バスティアン

Conductor: Joseph Bastian

2016年2月、ティチアーティの急なキャンセルに伴い、バイエルン放送響を振りセンセーショナルなデビューを飾った新鋭。ヤンソンス、ハーディングらのアシスタントを務めて頭角を現し、16年8月にN.ヤルヴィ賞を受賞し、翌年4月にグシュタード祝祭管と独ツアードで成功を収めた。これまでザールブリュッケン＝カイザースラウテルン・ドイツ放送フィル、ニュルンベルク響、バーゼル響、ミュンヘン室内管、ブレーメン・フィルなどを指揮。今後はルクセンブルク・フィル、ベルン響などへデビューする。1981年フランス生まれ。トロンボーン奏者としてマーラー・ユーゲント管などで演奏し、04年から17年までバイエルン放送響のバス・トロンボーン奏者を務めた。



ヴァイオリン

神尾 真由子

Violin: Mayuko Kamio

2007年チャイコフスキイ国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた実力派ヴァイオリニスト。4歳からヴァイオリンを始め、10歳でソリスト・デビュー。これまでにロストロポーヴィチ、G.アルブレヒト、メータ、ロト、インバル、I.フィッシャー、アシュケナージら巨匠の指揮でミュンヘン・フィル、南西ドイツ放送響、ブダペスト祝祭管、チューリヒ・トーンハレ管、バイエルン国立歌劇場管、イスラエル・フィル、BBC響など一流楽団と共に演奏している。ニューヨーク、ミラノなど世界各地でリサイタルも開催。録音ではRCAレコードから「ロマンティック・ソナタ」などをリリースし、好評を博している。読響とは13歳で初めて共演して以来、関係を深めている

読売日本交響楽団

Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

1962年、オーケストラ音楽の振興と普及のために読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビのグループ3社を母体に設立された。アルブレヒトやスクロヴァチェフスキら世界的巨匠が常任指揮者を歴任し、現在はS.カンブルランが常任指揮者を務めている。2017年11月にはメシアンの歌劇〈アッジの聖フランチェスコ〉（全曲日本初演）が好評を博し、「音楽の友」誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位となった。現在、名譽顧問に高円宮妃久子殿下をお迎えし、東京のサントリーホールや東京芸術劇場などで充実した内容の演奏会を多数開催している。また、病院や小中学校での演奏なども手掛け、社会貢献活動や音楽文化のすそ野拡大にも地道な努力を続けている。<http://yomikyo.or.jp/>